

シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE
114

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくり」との意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする（一時休業中）。同年JST（NGO：アンコール人材養成支援機構）を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒820人の学校運営を行っている。

● JSTホームページ
<http://www.jst-cambodia.net>

“一家に一農園”ブーム到来？

他州のことはわかりませんが、シエムリアップ市内に住む人々の間で、今、ブームとなっていること。それは、郊外に自分の農園を持つことです。狭くとも安い土地を買って開墾し、柵をつくり、井戸を掘って水を確保し、小さな小屋を建て週末は家族や友達を呼んで、そこでのんびりと過ごすのです。多くは市内で個人商売を営んでいる人々で、特にコロナ禍で商売を自粛せざるを得ない状況になってからは、自分の農園整備に没頭する人が多くなってきたように感じます。中には、鶏や豚を飼い、有機肥料をつくって果樹や野菜を育てるなど、持続可能な生活を目指している人もいます。FacebookなどのSNS上でも、農園の様子や、そこで楽しんでいる様子をアップする投稿が多くみられるようになってきました。

現在人気があるエリアは、バンテアイスレイ遺跡へ向かう道沿いで、家族用の小さな農園だけでなく、大規模な観光農園やホームステイができる宿泊型農園



農園でスイカの収穫！

もつくられ、ノンペン方面からの都市住民の憩いの場ともなっているようです。さらに先、アンコール時代の聖地・クレーン山の麓まで行くと、近い将来完成するシエムリアップ新国際空港に近いこともあり、広い土地を開拓して豪邸を建てているシエムリアップの富裕層もいます。

また、新型コロナウィルスから自分の子供を守るため、農園に本格的に住み始めた家族もいます。バイヨン中学校があるエリアでも、遺跡保存地域ということでも新しい建物の建設に強い規制がかかっているにも関わらず、これまで市内に住んでいた家族が小さな土地を手に入れ、次々と移り住んでいるようです。

サイクリングだけでなく農園で静かに過ごすブームも起き始めたシエムリアップ。コロナ禍をきっかけに、都市から郊外への動きがじわじわと進んでいます。